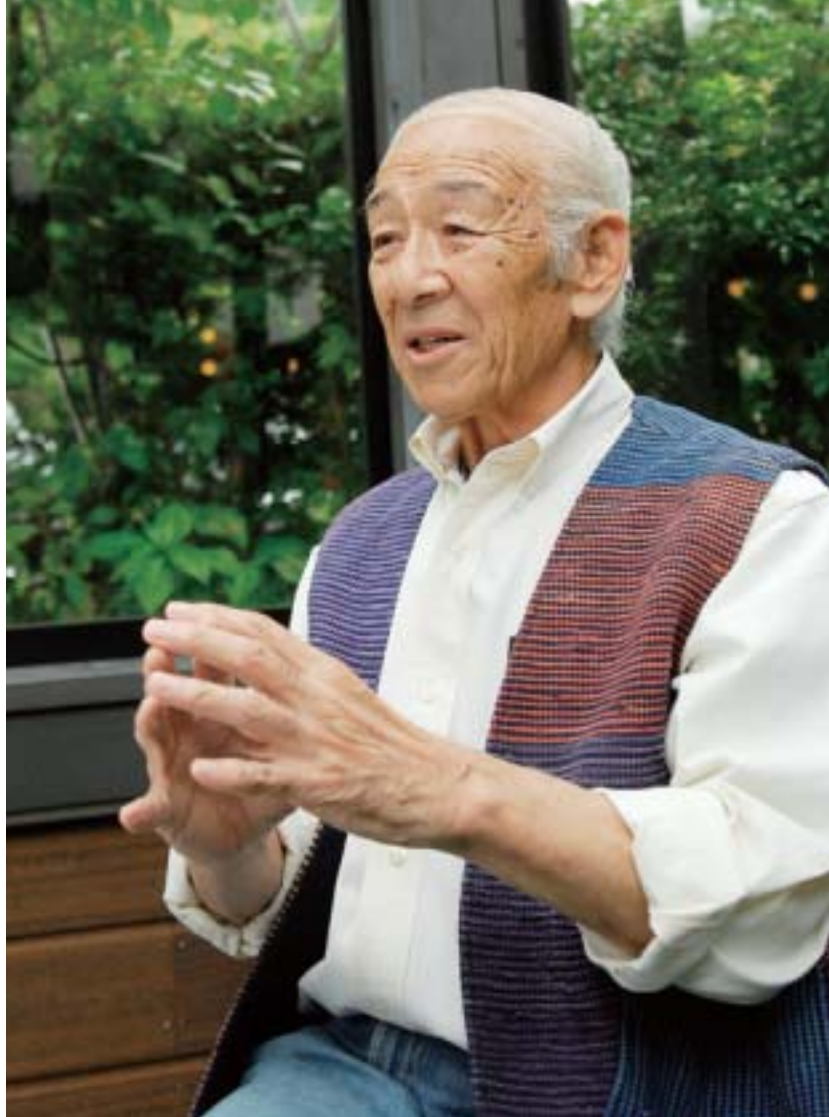


確かな未来は、 懐かしい風景の中にある

俳優 柳生博さん（八ヶ岳倶楽部にて）



八ヶ岳の麓、北杜市大泉町。この地に暮らして31年。柳生さんの植えた木は美しい雑木林となりました。その穏やかな心地よさに包まれていると、人間の心の一番大切な美しい部分が目覚めてくるのを感じます。「僕はここが大好きだから」そう言う柳生さんの笑顔と声は、本当に優しいものでした。

インタビュー

俳優

柳生 博さん

Hiroshi Yagyu

プロフィール

1937年茨城県に生まれる。土浦第一高校から東京商船大学を中退、視力の低下により船長への夢を断念。俳優座養成所に入所し、俳優として歩みだす。1961年 今井正監督の東映映画「あれが港の灯(ひだ)」でデビュー。NHK朝のテレビ小説「いちばん星」の野口雨情役で一躍脚光を浴びる。以来、存在感のあるベテラン俳優として活躍。最近では、NHK「生きもの地球紀行」の出演及びナレーションを務めた。俳優として幅広く活躍する一方、私生活では、山梨県八ヶ岳南麓（北杜市大泉町）にアトリエを建て31年。荒れ果てた人工林を元からあった雑木林に戻すため、広葉樹を中心に約1万本の雑木を家族と共に移植。その林を多くの人に「八ヶ岳倶楽部」として開放し、年間10万人もの人々が訪れている。現在、財団法人日本野鳥の会会長、コウノトリファンクラブ会長を務める。

始まりは13歳の夏。思いは今もあの頃のまま。

柳生家には代々「13歳になったら一カ月間ひとり旅に出よ」という「しきたり」があり、僕がその旅の地として

選んだのが小海線沿線でした。駅のベンチで野宿しながらの旅。地元の人たちとの会話や自然の圧倒的な美しさとの出会い。山の中に入ると自分もひとつの生き物であると感じ、とても素直に自分と向き合い、物事

岳に帰り、そして草を刈り、木を植えます。すると仕事のいい考えが浮かんで、今度は東京での仕事が多くなってまらなくなるんです。この二重生活は精神的にとても良い相乗効果を与えてくれました。

僕の林は徐々に美しい雑木林へと成長し、人々が集う場所になっていきました。そこでつくったのが「八ヶ岳倶楽部」です。芸術家にギャラリーを開放したり、お客様にゆったりとお茶を飲んでいただきながら、思い思いに八ヶ岳の自然を満喫していただけるようにしました。雑木林に安らげる美しさがあるのは、人が自然と一緒に作りあげた林だからだと思います。

手入れをすることで草花の居場所ができる、そして花が咲き、虫や鳥が来る、川には魚も戻ってきます。本当に素晴らしいこの自然の中で育った二人の息子たちは、この自然に教えられ、学びながら知性と感性を身に付けていったんだろうと思います。そして、それは僕の孫たちにも、確実に引き継がれようとしています。

こうした恵まれた自然環境、そして生き物たち、命の源である大いなる山に抱かれたこの地、そこには懐かしい風景があります。僕はね、確かな未来は、懐かしい風景の中にあると思っています。

人と自然の仲のいい関係 それが「八ヶ岳倶楽部」の雑木林。

「八ヶ岳倶楽部」で作品を紹介してきた芸術家の何人かはすでに八ヶ岳に移り住んでいます。また、このスタツもみんな県外からやって来た若者たち、この八ヶ岳にほれ込んで集まった仲間です。今、八ヶ岳の麓には、知的分野で、さらに自分を磨こうとする人々が集まってきています。以前のような裕福な年配の人が別荘として週末を過ごすというのではなく、県外に仕事を持ち、家族を八ヶ岳に住ませ、週末は八ヶ岳に

命の源である 大いなる山に抱かれた地、 そこには懐かしい風景がある。

八ヶ岳の麓に住もうと思ったのは僕が39歳の時。二人の息子は当時小学校4年と幼稚園。この子たちを東

帰る。このようなライフスタイルを実現している若い人が確実に増えてきています。

僕も、そんなライフスタイルを実行している一人です。芸能活動や講演などを行なう一方で、今でもこの雑木林の手入れを行ない草花を植えています。31年前から今日までずっと雑木林を中心とした作家といたところでしょうか。

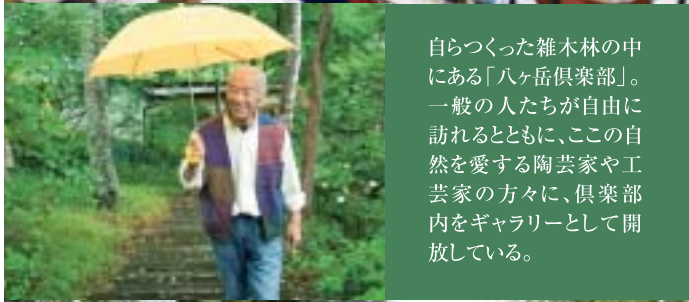
そして時間があれば必ず「八ヶ岳倶楽部」内のレストランやギャラリーにも顔を出します。大勢の方々が自由にここに来て、八ヶ岳の自然に接してほしいとも思っていますからね。

京ではなく自然の中で育てたいという思いと、またその頃、急に仕事が増えたことでバランスを崩しかけた僕の精神や夫婦、親子の関係などを考えたとき、家族の愛を育むためにはこのままじゃいけない、豊かな自然の中での生活が必要だと感じたのです。ここにやってきた頃、周辺は、荒れ果てた赤松林でした。僕は、自ら手を加えて、ここをもっとあった美しい雑木林に少しずつ変えていったんです。その時から東京との二重生活が始まりました。でも、大変だと思ったことはありません。東京での仕事の疲れやストレスを洗い流すために僕は八ヶ

ここにいと誰もが、人間の心の一番大切な美しい部分が目覚めて来るのを感じると思います。人と自然の仲のいい関係、それがこの雑木林であり、「八ヶ岳倶楽部」なんです。

まずは、ただひたすらに美しく、この懐かしい風景の中に身を置いてみてください。きっと、何かを感じ取れるはずです。

幅広く活躍されながら、八ヶ岳の自然と共に暮らして31年。「僕はここが大好きだから」そう言う柳生さんの笑顔と声は、本当に優しいものでした。



自らつくった雑木林の中にある「八ヶ岳倶楽部」。一般の人たちが自由に訪れるとともに、この自然を愛する陶芸家や工芸家の方々に、倶楽部内をギャラリーとして開放している。



八ヶ岳倶楽部のギャラリー入口へとつづく雑木林がとても美しい